

(1～10) (1, 2節)「主はモーセに言われた。『前のものと同じような二枚の石の板を切り取れ。わたしはその石の板の上に、あなたが砕いたこの前の石の板にあった、あのことばを書き記す。朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て。』・・」

今、神様はモーセに向かって石の板、2枚を切り取ってそれを持って、もう一度 山に登るように命じられました。それはその板の上に再び、あの十戒を刻み込むためでした。

——— モーセ再び石の板、2枚を準備する ———

そこでモーセは早速、その命令に従って朝、早く起きて、手に2枚の石の板を持って、神様の御前に出ました。

(5節) その時「主は雲の中であって降りて来られ、彼とともにそこに立って、主の名を宣言された」のでした。(6, 7節、読む) この厳しい宣言を聞いて、(8節)「モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏した」のでした。

(9節) モーセは祈りました。「ああ、主よ。もし私がみこころにかなっているのであれば、どうか主が私たちのただ中にいて、進んでくださいますように。確かに、この民はうなじを固くする民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自分の所有としてくださいますように。」ここで主は、モーセの祈りに応えて、すぐに大いなるあわれみを示されました。そして、言われました。

(10節)「今ここで、わたしは契約を結ぼう。わたしは、あなたの民がみないところで、地のどこにおいても、また、どの国においても、かつてなされたことがない奇(くす)しいことを行う。・・・」

ここで、神様は、以前イスラエルの民と結ばれた契約、しかも彼らによって破られた契約を更新されました。

そして更に(10節)「・・あなたがそのただ中にいる民は、主の業を見る。わたしがあなたとともに行うことは恐るべきことである。」と語っています。

それにしても、神様は、よき忠実なしもべ達を用いて、大いなることをなされる神様です。(第2歴代誌 16:9節)「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心をご自分と全く一つになっている人々に御力を現わしてくださるのです。・・・」

——— 民が守るべき事、2つ ———

(11～26) この所で、神様は民がご自分といつも一つになっているように、2度と以前の失敗をしない様にと釘を刺しておられます。神様の契約の約束と、その約束を受けるために、民はどの様な状態でなければならないか、という大切なことがここに書かれています。

それでは、特にイスラエルの民が陥りやすい罪とはなんでしょう？ その様な罪を犯さないために、神様がここで言われている2つのこととは・・・。

その1、やってはいけないこと。(11～17節)

・(12節)「あなたは・・・その地の住民と契約を結ばない様に・・・」 異教の民と契約を結ぶことです。

・(13節)「彼らの祭壇を打ち壊し、彼らの石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さなければならぬ。」 偶像と関わってはいけませんね。

・(14節)「ほかの神を拜んではならない。」 同じ言葉が続きます。偶像を拜まない様に。

・(15節)「あなたはその地の住民と契約を結ばないようにせよ。彼らは自分たちの神々と淫行をし、自分たちの神々にいけにえを献げ・・・あなたは、そのいけにえを食べるようになる。」 偶像とのいかがわしい関係を持たない様に。

・(16節)「彼らの娘たちをあなたの息子たちの妻とするなら、その娘たちは自分たちの神々と淫行を行い、あなたの息子たちに自分たちの神々と淫行を行わせるようになる。」

異国の娘たちとの結婚の禁止。汚れた風習が入ってくるので。

・(17節)「自分のために鋳物の神々を造ってはならない。」異国の神々を造ってはならない。

その2、3つの祭りを守ること。(18～26節)

① (18節)「・・・種なしパンの祭りを守らなければならない。」(過ぎ越しの祭り)

② (22節)「初穂のためには七週の祭りを」(五旬節、ペンテコステ)

③ (22節)「年の変わり目には収穫祭を行わなければならない。」(仮庵の祭り)

神様との約束を民が守る時、神様はいつも共にいて下さいます。

この様に、男子はみな、年に3回は、主であるイスラエルの神様の前に出ることを期待されました。そして、このことを民が実行する時、主は次の様に約束されました。

(24節)「・・・あなたが年に三度、あなたの神、主の前に出ようとして上って行くときも、あなたの地を欲しがる者はだれもない。」

イスラエルの民は、他国との戦争中でも、安息日は守りました。(24節A)「わたしがあなたの前から異邦の民を追い出し、あなたの国境を広げるので・・・」と書かれているように、礼拝中は主が、しっかりとイスラエルを守られました。

神様の御旨に、しっかりと従う道、これ以上に安全の道はありません。ですから、私たちも素直に、神様の御旨を行ってれば、神様はいつも私たちを守り、助けて下さいます。

ですから、私たち ① やってはいけない事 ② やらなければならない事を、しっかりとわきまませましょう！

そして、最後に主は言われました。

(27節)「これらのことばを書き記せ。わたしは、これらのことばによって、あなたと、そしてイスラエル契約を結んだからである。」

神様は、契約を結んだイスラエルの民を永遠に、守り、導き、保障します。
私たちクリスチャンも同じです。神様は、決して約束を破らないお方です。ハレルヤ！

——— モーセの顔の輝き ———

(28 節)「モーセはそこに四十日四十夜、主とともにいた。彼はパンも食べず、水も飲まなかった。そして、石の板に契約のことば、十のことばを書き記した。」

(29～35、読む) モーセが、十戒が書かれている石板 2 枚を手にとって、山から下りて来た時、なんと、その顔が光を放っていました。人々は彼に近づくことを恐れました。

これはモーセが四十日四十夜、神様と交わり、神様に祈っていた結果でした。

よく「人の顔は、その人のうちに宿る」と言います。ですから、神様と親しく交わり、その深い恵みに与（あず）かった人の顔が、光を放つのは当然です。

(ルカ 9:28、29 節)「・・・イエスは・・・祈るために山に登られた。祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。」

(使徒 6:15 節)「最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見えた。」

私たちは、いつもいつも、神様と親しく交わる事によって、その御光を体全身に受けて、光を反射する者でありたいと思います。

(第 2 コリント 3:16～18 節)「しかし、人が主に立ち返るなら、いつでもその覆（おお）いは除かれます。・・・私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

今日、私たちも礼拝を終えて、家に帰った時、きっと皆さんは光輝く人であるはずですね。
そのような証ができれば素晴らしいですね。
主イエス様の栄光を反映させながら、この一週間歩みましょう。